

平成 23 年度環境エネルギー科学技術委員会における研究評価計画

平成 23 年 3 月 8 日
環境エネルギー科学技術委員会**1. 評価の目的**

本委員会は「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」（平成 21 年 2 月文部科学大臣決定、以下「評価指針」、参考資料 1-5）及び「研究計画・評価分科会における評価の進め方」（平成 23 年 2 月 15 日科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会、参考資料 1-6）に基づき、新規課題については必要性・有効性・効率性の観点から評価を行い、その推進、修正等の判断を行う。また、継続課題については、進捗状況を評価した上で効果的な実施の観点から研究内容の見直し等の提言を行う。終了課題については、目標の達成度を確認すると共に、研究成果の更なる発展や活用に向けた方策等の提言を行う。

2. 評価対象課題**(1) 事前評価**

平成 24 年度新規予算要求課題

(2) 中間評価

該当なし

※以下の課題については、平成 24 年度に中間評価を行う。
・気候変動適応研究推進プログラム（平成 22 年度採択課題）

(3) 事後評価

21 世紀気候変動予測革新プログラム（H19～H23）

（プログラム統括：松野太郎・西岡秀三）

- 地球システム統合モデルによる長期気候変動予測実験
（研究代表者：海洋研究開発機構 時岡達志）
- 高解像度大気海洋結合モデルによる近未来予測実験
（研究代表者：東京大学大気海洋研究所 木本昌秀）
- 超高解像度大気モデルによる将来の極端現象の変化予測に関する研究
（研究代表者：気象研究所 鬼頭昭雄）
- 雲解像モデルの高度化とその全球モデル高精度化への利用
（研究代表者：名古屋大学 坪木和久）
- LES による海洋微物理過程の高精度パラメタリゼーション
（研究代表者：東京大学理学系研究科 日比谷紀之）

3. 評価方法

(1) 事前評価

委員会主査は、平成 24 年度新規予算要求課題の評価のために委員会を開催する。委員会においては、当該課題の必要性、有効性、効率性の観点から事前評価票（様式 1）に記載の各評価項目に基づき評価を実施する。各委員が作成した事前評価票を基に、本委員会において事前評価票を作成し、研究計画・評価分科会へ報告する。

(2) 中間評価

本年度は、評価対象課題が無いため特に取り決めない。

(3) 事後評価

委員会主査は、必要に応じて作業部会を設置して、上記 2（3）の課題の評価のために委員会を開催する。各委員は、別途提出される自己点検結果報告書（様式 2-1）及び委員会でのプログラム統括または研究実施者による発表を受け、事後評価票（様式 2-2）に記載の各評価項目に基づき評価を実施する。

各委員が作成した事後評価票を基に、本委員会において事後評価票を作成し、研究計画・評価分科会へ報告する。

なお、評価に係わる委員会の議事及び資料は、原則として公開とするが、公平性の確保等の必要性に応じ、主査の判断により部分的に非公開とすることができる。

4. その他

- ・議事録については、発表者による学会発表等を考慮し、記載内容、発表時期等について柔軟に対応するものとする。

事前評価票

(平成〇〇年〇〇月現在)

1. 課題名 〇〇
2. 開発・事業期間 平成××年度～平成△△年度
3. 課題概要 〇〇・・・・・・・・
4. 各観点からの評価
(1) 必要性 ※ 以下の例を参考に適切な評価項目を抽出し、評価基準を設定 科学的・技術的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）、社会的・経済的意義（産業・経済活動の活性化・高度化、国際競争力の向上、知的財産権の取得・活用、社会的価値（安全・安心で心豊かな社会等）の創出等）、国費を用いた研究開発としての意義（国や社会のニーズへの適合性、機関の設置目的や研究目的への適合性、国の関与の必要性・緊急性、他国の先進研究開発との比較における妥当性等）その他国益確保への貢献、政策・施策の企画立案・実施への貢献等
(2) 有効性 ※ 以下の例を参考に適切な評価項目を抽出し、評価基準を設定 新しい知の創出への貢献、研究開発の質の向上への貢献、実用化・事業化への貢献、行政施策への貢献、人材の養成、知的基盤の整備への貢献、（見込まれる）直接の成果の内容、（見込まれる）効果や波及効果の内容等
(3) 効率性 ※ 以下の例を参考に適切な評価項目を抽出し、評価基準を設定 計画・実施体制の妥当性、目標・達成管理の向上方策の妥当性、費用構造や費用対効果向上方策の妥当性、研究開発の手段やアプローチの妥当性、施策見直し方法等の妥当性等
5. 総合評価 実施の可否の別とその理由、中間評価・事後評価の実施時期、今後研究開発を進める上での注意点など

自己点検結果報告書

..... 課題名

課題代表者：〇〇大学法人××大学 〇〇 〇〇 (名前)

I 研究開発の体制等

(1) 研究開発スケジュールの進捗状況

(2) 研究実施機関(者)の連携

II 研究開発目標の達成度

※語句解説：

〇??：

??とは〇〇である。

事後評価票

(平成〇〇年〇〇月現在)

1. 課題名 〇〇・・・・
2. 評価結果
(1) 課題の達成状況 ※達成度の判定とその決定根拠を明確にする ※ 所期の目標は達成したか ※ 事前評価あるいは中間評価において設定された「必要性」、「有効性」、「効率性」における各評価項目について、その評価基準を満たしたか
(2) 成果 ※ どのような成果を得たか、その所期の目標との関係は ※ 波及効果があったか
(3) 今後の展望 ※ 研究結果を踏まえた今後の展望、予想される効果・効用の明示

今後の調査検討スケジュールについて

1. 主な調査検討内容

- 第4期基本計画に則った、重要課題への対応に向けた環境・エネルギー分野の「研究開発方策（仮称）」について
- 環境エネルギー科学技術に関する施策の評価について

2. 今後の主なスケジュール（予定）

4月上旬頃	環境エネルギー科学技術委員会（第2回）開催 ※「研究開発方策（仮称）」の調査検討 ※ 新規施策に関する作業部会の設置
5～6月	環境エネルギー科学技術委員会（第3回）開催 ※「研究開発方策（仮称）」の調査検討
6～7月	環境エネルギー科学技術委員会（第4回）開催 ※「研究開発方策（仮称）」の審議結果（中間）取りまとめ ※ 平成24年度新規施策の事前評価
9月目途	環境エネルギー科学技術委員会（第5回）開催 ※「研究開発方策（仮称）」の報告書取りまとめ
10～11月	研究計画・評価分科会において、各委員会による取りまとめをもとに 「研究開発方策（仮称）」について審議・策定
平成23年度内	環境エネルギー科学技術委員会（第6回）開催 ※「21世紀気候変動予測革新プログラム」の事後評価